

もきつい練習をします。そして大学では、日本一になります。

自由帳

長岡市・表町小 2年

内藤 柊



めは、プロ野球きゆうせん手になることです。

ようち園のころに、アルビの野きゆうせん手とキャッチボールをしてあげられて、すきになりました。今はセカンドだけでしょう。来は、ピッチャーになりたいです。目ひようとするピッチャーは、アルビからヤクルトにいった寺田せん手です。ごはんをいっぱい食べて、れんしゅうをします。

長岡

長岡支社 〒940-0082 長岡市千歳1-3-43
代表 0258(34)9600
報道部 (34)9633 FAX(34)9660

「いずれは個展をしたい」と語り、多面体の奥深さと日々向き合っている。

「燕三条 工場の祭典」の開催など、産業観光への見学。燕市産業中 かつて燕三条地

小児往診 寄り添って

長岡市の新興住宅街にある一軒家。医師の磯部賢論(44)は重症心身障害がある少年(14)に聴診器を当てながら優しく語りかけた。「変わりはないかな」。生協こともクリニック(長岡市沢田1)の所長として日々の診察に追われながら、県内では極めて珍しい小児訪問診療で寝たきりの子どもたちの生活を支える。

訪問診療は高齢者医療では広がりつつあるが、採算性に加え診療の時間やリスクなどを理由に、子どもは対象外としているのが一般的だ。「お年寄りがあるのに、子どもにないのはおかしい」。子ども目線の意識が、小児訪問診療を続ける原動力となっている。

見附市出身。都内の病院で研修医を経て、佐渡市や上越市、長岡市などで病院勤務医のキャリアを積んできた。軽症から重症までをカバーし、救急や集中治療室の子も診てきた。「勤務医として学べることば学んだ」と考え、2011年に長岡赤十字病院の小児科副部長を辞職した。

20年近い勤務医を終えると、「地域に還元したい」という思いが強まった。かかりつけ医として地域に親しまれてきたながおか医療生活協同組合に誘われた。12年開院のこともクリニックの所長を引き受けた。勤務医時代から必要性を感じていた小児訪問診療を提案すると、組合は赤字覚悟で背中を押してくれた。

クリニックの診察は1日100人以上、多い日は200人にもなる。学校医なども務めるため、訪問診療ができるのはせいぜい週1日。病院の主治医と連携しながら市内在住の重症心身障害児3人を、月1、2回ペースで片道30分ほどかけて診ている。

患者の住環境や家庭環境、暮らしぶり。「自宅に行かなければ

分からなかったことは多い」。診察や気管への挿管チューブ交換など医師としてだけではなく、誕生日を迎えた子どもにメッセージカードを送り、ケアに追われる親の相談役や励まし役もこなす。カードを子ども部屋に飾っている母親(40)は「子どもだけでなく家族も支えてくれる。来てくれることが本当に心強い」と笑顔で話す。

新たな挑戦を通して、患者や家族、その生活に寄り添った医療ができていくという手応えを感じている。「寝たきりの子ども毎夜、『明日こそは』と夢見ているはず。優しいままさして子どもと向き合う日々を送る。



小児訪問診療で通院困難な子どもを診察する医師の磯部賢論＝長岡市(長岡支社・佐藤隆撮影)

交差点

西谷小の記憶 胸に刻み

尾 閉校前に資料展示
文化センター

今月で閉校す尾地域の西谷小を紹介する「西谷小学校展」が尾文化センター森上小と統合し、年以降の歴史をが並んでいる。西谷小は1977年に起源を以降、365人が送り出した。現在は8人に減少し、小学校展は西